

# 平成24年度全国学力・学習状況調査結果概要

東員町教育委員会

## 1. 調査概要

- ◎平成24年4月17日実施（抽出調査 ※全国抽出率30%）
- ◎小学校第6学年、中学校第3学年が対象
- ◎国語、算数・数学に加え、初めて理科を実施
- ◎児童生徒及び学校に対し、生活習慣や学習環境等に関する調査も実施
- ◎東員町内では東員第一中学校、東員第二中学校が抽出校

## 2. 中学校 国語について

### (1) 調査問題の内容

「知識」のA問題、「活用」のB問題ともに、学習指導要領に示されている三領域一事項（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」）に基づいて、その全体から問題作成されている。「話すこと・聞くこと」の領域については、生徒が実際に話したり聞いたりするような調査が難しいため、場面設定・状況設定などを工夫して、話す・聞く活動にできるだけ近づけた出題となっている。

### (2) 主な特徴

○・・・正答率が高かった内容   ▽・・・正答率が低かった内容

(A) = 国語A、(B) = 国語B

#### ① 話すこと・聞くこと

○ (A) 聞き手や場面を意識して、適切な語句を選択して話すこと。

#### ② 書くこと

○ (A) 手紙の形式を理解して書くこと。伝えたい事柄を明確にして書くこと。

▽ (B) 相手の発言を注意して聞き、自分の考えを書くこと。

#### ③ 読むこと

○ (A) 比喩を手掛かりにしながらか文脈をたどり、内容を理解すること。

○ (A) 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと。

▽ (B) 物語の場面の展開を捉えること。

#### ④ 言語事項

○ (A) 文脈に即して漢字を正しく読むこと。

○ (A) 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと。

○ (A) ひらがなで表記された作品名をローマ字で書くこと。

### (3) 全体的な傾向と課題について

4つ領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」）のバランスはとれているが、若干「読むこと」の平均正答率が他の領域に比べ低い。特に文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てることが弱い。また、国語B（活用）について、今回出題された学習内容に係る知識・技能を活用する力については、更に身につけさせる必要がある。

### 3. 中学校 数学について

#### (1) 調査問題の内容

主として「知識」に関する問題（整数、小数、分数等の四則計算をすること、身の回りにある量の単位と測定が分かること、図形の性質が分かること、数量の関係を表すこと等）、主として「活用」に関する問題（与えられた情報を分類整理したり必要なものを適切に選択したりすること、事象を数学的に解釈したり自分の考えを数学的に表現したりすること等）のそれぞれを、平成24年度の中学校第3学年の生徒は、第2学年までの学習指導要領（平成10年告示）の内容と学習指導要領（平成20年告示）の移行措置の内容で学習しているので、これらの内容に基づいて問題が作成されている。

#### (2) 主な特徴

○・・・正答率が高かった内容   ▽・・・正答率が低かった内容

(A) = 数学A、(B) = 数学B

##### ① 数と式

○ (A) 正の数と負の数について具体的な場面での活動を通して理解し、その四則計算ができること。

▽ (B) 数量及び数量の関係をとらえるために文字式を利用できることを理解すること。

##### ② 図形

○ (A) 空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されているものととらえたり空間図形を平面上に表現したりすることができること。

○ (B) 線対称、点対称の意味を理解するとともに、対称性に着目して平面図形についての直感的な見方や考え方を深めること。

▽ (B) 証明の意義と方法について理解すること。

##### ③ 数量関係

▽ (A) 座標の意味を理解すると。

▽ (A) 事象の中には一次関数を用いてとらえられるものがあることを知ること。

▽ (B) 関数関係の意味を理解すること。

▽ (B) 比例、反比例の見方や考え方を活用できること。

▽ (B) 一次関数のとる値の変化の割合とグラフの特徴を理解するとともに、一次関数を利用できること。

#### (3) 全体的な傾向と課題について

A問題（知識）については、「数量関係」の知識・技能について、身につけさせる必要がある。  
B問題（活用）については、A（知識）であげた領域に加え、「数と式」「図形」においても活用する力は平均正答率が低い。事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することや、不確定な事象についての予想を実験で確かめるための方法を考える「数量関係」についての授業改善を図っていく必要がある。

## 4. 中学校 理科について

### (1) 調査問題の内容

学習指導要領解説理科編において、科学の基本的な見方や概念の柱として示された「エネルギー」「物質（粒子）」「生命」「地球」に即して作成されている。調査問題は、第1分野の「物理的領域」と「化学的領域」、第2分野の「生物的領域」と「地学的領域」からそれぞれ出題され、4つの問題からなっている。

### (2) 調査結果の主な特徴

○・・・正答率が高かった内容   ▽・・・正答率が低かった内容

#### ① エネルギー

○実験結果の考察と「新聞に書かれていた LED 電球の省エネの効果」を関連づけている場面において、電力に関する知識を活用して、LED 電球の省エネの効果を考えること。

▽電流によって熱や光などを発生させる実験を行い、電流から熱や光などが取り出せること及び電力の違いによって発生する熱や光などの量に違いがあることを見出すこと。

#### ② 物質

▽「水槽の中の液体が、食塩水の1層なのか、上層が水、下層が食塩水の2層なのか」ということを検証する実験を計画すること。

#### ③ 生命

▽動物を飼育する場面において、両生類の子と親の体のつくりと働きや生活場所に関する知識を活用して、カエルの特徴や成長に応じて飼育の環境を整えた理由を説明すること。

▽「チューリップの花が開く温度を明らかにする」という追実験の目的のもと、実験結果の考察から花が開く温度を予想して適切に温度を設定し、追実験を計画すること。

#### ④ 地球

○「地層の連続性や成因を調べるために、断層の有無や地層に含まれている粒に着目する」という地層観察に関する技能を身につけること。

○「石灰岩（石灰石）にうすい塩酸をかけると二酸化炭素が発生する」という石灰岩の見分け方に関する技能を身につけること。

▽観察地における地層の広がりについて、観察地の図と観察結果から分析して解釈し、地層の傾きを認識して、その傾きの方向を指摘することができること。

▽火山や地層、堆積岩の知識を活用し、過去の火山活動が活発だった時期の回数についての他者の考察を検討し、根拠を示して改善した考察を説明することができること。

### (3) 全体的な傾向と課題について

実験の計画や考察などを検討し改善したことを、科学的な根拠をもとに説明することと、実生活のある場面において、理科に関する基礎的・基本的な知識や技能を活用することに課題が見られる。

## 5. 最後に

### (1) 調査結果に関する留意事項

本調査は、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身につけるべき学力の特定の一部であることを留意する必要があります。

### (2) 今後の支援策

調査結果の分析を行って課題を把握し、各学校の取り組みを支援していきます。具体的には、授業改善のための研究授業への支援や、指導方法・評価方法の工夫改善のための研修への支援等を進め、学力の定着と向上を図ります。